

遊びの流儀 遊楽図の系譜

サントリー美術館（東京・六本木） 2019.06.26～08.18



本展は「遊び」に着目して、江戸時代に男女が熱中した舞踏、音楽、ゲーム……時代を超えた人々を夢中にさせてきた「遊び」の様子を描いた「遊楽図」から、人々を楽しませてきた物ごとを探る展覧会である。

「四条河原遊楽図屏風」二曲一双のうち右隻 17世紀（江戸時代）



「遊楽図」は古くから存在していたが、近世に入ると屋外の遊びや都市風俗を中心にしたものが流行し、当時の娯楽の中心地であった京都の四条河原に、芝居小屋や珍獣の見世物小屋が立ち並んで、川で水遊びをする人、食事をしながら舞台に見入る人と思いに楽しむ人がぎっしりと描かれている作品である。

「遊楽図屏風」（相応寺屏風）八曲一双の内左隻（部分）17世紀・江戸時代



幕藩体制が整い、屋外での派手な遊びが取り締まれるようになり、「遊楽図」も屋外から邸内、大人数から小人数へと移行した移行期を描いた作品である。右隻は屋外の遊びが中心で、料理人を連れての豪勢な花見をしている人たちがいるかと思えば、かぶき者が喧嘩をしている。一方、左隻はすごろくや読書をする人、庭で蹴鞠をする人など、舞台は2階だての屋敷とその周辺に限られている。

「婦女遊楽図屏風」（松浦屏風）六曲一双の内右隻 17世紀・江戸時代



髪型も着物の柄も異なる18人の遊女らが描かれて、まるでファッションショー誌のグラビアのようである。

これらの「遊楽図」に見られる人の姿に、時代を超えて共感ができる「遊楽図」名作品が展示されている。